

データシート

マルチテナント vs. シングルテナント クラウド導入

インフォアソリューション

業界アナリストは、シングルテナントとマルチテナントの導入の長所と短所をめぐって議論することがあります。過去にはシングルテナントの導入が有効なソリューションであった場合もありますが、マルチテナントの導入は、オペレーションの近代化を目指す企業にとって多くのメリットをもたらし、真のクラウドベースのプラットフォームとして、膨大な量のストレージ、迅速な実装、および、高度なセキュリティ機能を提供することができます。本書では、マルチテナント導入が長期的なソリューションとしてより良い選択である理由について、ご紹介します。

シングルテナントとマルチテナントの違いについて

この2つの導入プラットフォームの特徴を理解し、両者の主要な違いに注意することはとても重要です。以下は基本的な定義です。

シングルテナント・アーキテクチャでは、通常、顧客ごとに個別のソフトウェアとサーバー・リソースを提供するため、顧客企業はシステムを十分に制御できますが、マルチテナントと比較してより多くの労力とより大きな投資が必要になります。一部の企業は、既存の長所と短所をすべて備えたレガシーシステムを「リフト」し、シングルテナントの導入でクラウドに「シフト」しています。残念ながら、このプロセスは、企業が脱却したいと考えている多くの時代遅れのプロセスを存続させてしまう原因です。

さらに、シングルテナントのアーキテクチャでは、オンプレミスのソリューションと同様に、多くのリソースを必要とする高額なアップグレードのプロセスが必要です。また、シングルテナント型の構造は、柔軟性が欠けるため変更の範囲が制限されることが多く、このような柔軟性の欠如は企業の成長の妨げになる可能性があります。ビジネス活動が活発化すると、新しいサーバーにシステムを再展開するまで、シングルテナントのシステム性能は低下し、ダウンタイムが発生し、ビジネスが中断する可能性があります。

マルチテナント環境では、複数の顧客が同じ共有ハードウェア上の同じオペレーション環境内でアプリケーションを使用することができます。このモデルでは、クラウドコンピューティングの利点である俊敏性やセキュリティの向上に加えて、より多くのビジネスユーザーでIT投資を共有することができます。これにより、プロバイダーは、より強固なテクノロジーを活用しながらも、コストを削減することができます。その結果、プロバイダーはより低価格でサービスを提供することが可能になります。また、マルチテナント環境では、顧客は実績のある標準化されたプロセスを採用し、遵守する必要があります。このアプローチにより、アップグレードを不必要に複雑にする「修正ありきの考え方」を回避することができます。Infor CloudSuite™の業界ソリューションのような優れたクラウドベースのソフトウェアは、コードの修正ではなく、拡張性とプラットフォームツールを使用することでパーソナライズを可能にします。マルチテナント展開により、企業は柔軟性、拡張性、信頼性、そして価値を手に入れることができます。

シングルテナント vs. マルチテナント

| | シングルテナント | マルチテナント | 勝者 |
|---------------------------|--|---|--|
| 定期的なメンテナンスとバックアップ | セルフホスティングのシングルテナントソリューションでは、メンテナンスとバックアップは顧客自身で行います。また、シングルテナントのプロバイダーによっては、これを要求する場合があります。しかし、インフォアはバックアップを提供し、サービスレベル契約 (SLA) によりアップグレードにかかる時間を明確にしています。 | マルチテナント・プロバイダーは、定期的なメンテナンスとバックアップを顧客に代わって行います。 | マルチテナント・プラットフォームでは、プロバイダーの専門家がお客様のためにメンテナンスに専念し、信頼性のためのベストプラクティス標準を適用します。 |
| 完全な冗長性とディザスタリカバリ | シングルテナントで導入する場合、完全な冗長性とディザスタリカバリを実装すると、システムの二重化が必要になり、コストが倍以上になる可能性があります。インフォアは、様々なアベイラビリティゾーンと弾力的なロードバランサーを利用することで、これを実現しています。 | マルチテナントのソリューションは、完全な冗長性を提供する自動スケーリング技術に基づいて構築されています。 | マルチテナントの導入は、より信頼性が高く、より低コストです。 |
| セキュリティ | シングルテナントのプロバイダーの中には、ソリューションのセキュリティを顧客の責任とするものもあります。インフォアは、シングルテナントのお客様に対しても、マルチテナントのお客様と同様のセキュリティを提供します。すべてのシングルテナント・プロバイダーがそう言うわけではありません。 | マルチテナントでは、新しいタイプの脅威を常に把握している専門家が、お客様に代わって、セキュリティを管理します。 | シングルテナントのプロバイダーとは異なり (インフォアは除く)、マルチテナントのプロバイダーは、セキュリティ機能に対する追加料金や、ソリューション独自のセキュリティ管理を要求することはありません。 |
| 機能と性能の更新 | 一部のシングルテナント型プロバイダーでは、サービス契約の追加料金を支払わない限り、アップグレードの実行責任はお客様にある場合があります。インフォアは、シングルテナントのお客様のアップグレードを管理しますが、マルチテナントのお客様よりもアップグレードの回数が少なくなります。 | マルチテナントのプロバイダーは定期的にアップデートを行い (インフォアは毎月)、お客様のソリューションが常に最新のテクノロジーに対応することを保証します。 | マルチテナントでは、毎月のアップデートがより容易に実施でき、混乱も少なくて済みます。ビジネスユーザーは、新しい機能が追加されるたびにトレーニングを受けることができます。 |
| 高トラフィックやワークロードの変動に対応した拡張性 | シングルテナントでは、使用する、しないに関わらず、ピーク時に備えて余分なキャパシティに投資しておく必要があります。 | マルチテナントの柔軟なキャパシティは、必要に応じて自動的に拡張され、お客様は必要な分だけを支払えばよいことを意味します。 | マルチテナントは、より柔軟で、コストの節約が可能です。 |

導入の種類が重要な理由

クラウド化を急ぐあまり、シングルテナントかマルチテナントか、といった判断を急ぐ企業があります。クラウド戦略を計画するCIOやIT部門長は、その長所と短所をよく理解し、それぞれのアプローチの長期的な影響を十分に理解する必要があります。リスクを嫌う企業の中には、シングルテナントの方が安全だと考えてそのモデルを採用したところ、その限界に驚くことになるケースもあります。シングルテナントの導入が期待を下回る場合、最終的には真のマルチテナントのクラウドソリューションに再導入する必要があるかもしれません。このように、間違った判断は、リソース、資本、および時間を浪費することになります。

シングルテナント導入の追加リソースとコスト

シングルテナントとマルチテナントの違いは、一般に考えられている以上に大きいことが多いです。また、企業がもつ責任も異なります。上の表は、シングルテナントとマルチテナントの導入が、いくつかの主要なプロセスに与える影響を示しています。

マルチテナント導入の9つのメリット

1. **セキュリティの専門知識:** 新しい攻撃手法に精通した専門家による継続的な監視の恩恵を受けることができます。セルフサービス型のシングルテナント環境では、企業は経験豊富なITセキュリティ・スペシャリストのチーム全体を雇用する必要があります。また、地域によっては、そのような人材を確保することが困難な場合もあります。

- 2. 継続的なアップグレード:** ソリューションが常に最新の状態に保たれるようになります。2〜3年ごとに大規模なアップグレードを実施する必要はありません。その代わりに、マルチテナント環境では、プロバイダーがリリースし実装されるたびに小規模なアップデートが行われるのが一般的です。さらに、定期的なアップデートは、複数の地域にまたがる場合でも、常に変化する規制に対応できることを意味します。
- 3. コスト管理:** リソースを節約することができます。余分なスタッフやセキュリティ、ピーク時の余分なキャパシティ、完全な冗長性とディザスタリカバリのための余分なスペースにお金をかける必要はありません。
- 4. アジリティ:** 企業の成長と変化をサポートします。マルチテナントソリューションは最新の状態に保たれているため、新しい地域に必要なローカライゼーションを備えています。また、企業合併や新しい地域への進出など、必要に応じて簡単に容量を調整することができます。
- 5. イノベーション:** ITチームをメンテナンス作業から解放し、より戦略的な課題に集中できるようになります。また、マルチテナントは、モノのインターネット、人工知能、機械学習など、大量のデータに依存する先進技術に必要なタイプの、弾力性のあるストレージキャパシティを提供します。
- 6. Platform as a service:** マルチテナント・アーキテクチャのノーコード/ローコードツールにより、コードを変更することなく、レポートの作成、インターフェースのパーソナライズなどを行うことができます。最新のマルチテナントソリューションは、拡張性をサポートするツールで、面倒な修正を必要とせず、パーソナライズできる機能を提供します。
- 7. 最高品質で洗練されたソリューション:** マルチテナントのソリューションは、プロバイダーによって継続的に高度に精査されているので、信頼できます。マルチテナント環境で使用できるソフトウェアは、随時行われる厳格なテストをクリアし、品質管理の基準を満たす必要があるからです。
- 8. 合理化の機会:** 実績あるベストプラクティスを採用し、「これまでこうやってきたから」という理由だけで優勢だったプロセスから脱却できます。マルチテナントへの移行は、ワークフローや優先順位、さらには作業者の意識を変えるチャンスでもあります。例えば、顧客に焦点をあてながら、企業や製品のイノベーションについて考えることができます。度重なる修正を排除することで、チームは慣れ親しんだやり方を維持するのではなく、イノベーションと新しい目的に集中することができます。また、ソフトウェアコードに悪影響を与える可能性のあるアドオンプロジェクトの壁となってくれるので、将来に対するプロジェクトが可能になります。
- 9. 将来に備えて:** 長期的な戦略と運用の実行プランの基礎として、マルチテナント導入を活用できます。ここに挙げたメリットはデジタルトランスフォーメーションの基礎となるものです。また、マルチテナントへの移行は、テクノロジーの変化に合わせて適応し続けるため、最後の大規模な導入になる可能性が高いです。

デジタルトランスフォーメーションの旅に出る

シングルテナントとマルチテナントのどちらを導入するかを選択は、アップグレード戦略上、非常に重要な部分です。この選択は、しばしば急かされたり、無条件でITチームに委ねられたりすることがあります。ITチームは、より多くのコントロールを維持するためにシングルテナントの選択肢を好むかもしれません。しかし、CEOや経営幹部は、エンドツーエンドの変革を望んでいるかもしれません。デジタルトランスフォーメーションが目的であり、長期的なソリューションを求めるのであれば、マルチテナントが最適な選択肢になります。マルチテナントの導入を選択することは、デジタルトランスフォーメーションの旅の最初のステップとなります。

[詳しくはこちら](#) ↗

infor

インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、175か国以上で65,000以上のお客様のビジネスを支援しています。詳しくは、www.infor.com/ja-jp/ をご確認ください。

Copyright © 2022 Infor. All rights reserved. 本文に記載の文字商標および図形商標は、インフォアおよび/またはその関連会社ならびに子会社の商標および/または登録商標です。本文に記載のすべての他の商標は各所有者の所有物です。 www.infor.com

東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル16階

INF-2631652-ja-JP-0222-1